
俺の愛した黒髪

琢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の愛した黒髪

【Nコード】

N9818U

【作者名】

琢

【あらすじ】

平凡な高校生・和久田達也はある黒髪に惹かれるようになる。その髪を持ち主は悪鬼姫というあだ名を持ち、「イカれている」と噂される女子だった。達也の友人・大輝は「あの女は止めとけ」と忠告するが、魅了された達也を止めることは出来なかった…。

髪を持ち主（前書き）

なんの構成も考えず、適当に書いてます（苦笑）。
拙い、また簡単にオチの読める話となりそうですが、よろしく願
いします。

髪を持ち主

黒い髪がサラリと流れた。この暑い時期には暑苦しく見える女子の長髪。束ねていないと尚暑苦しい。だが、彼女の場合はそう思えなかった。

窓からの日光で髪が光沢を放ち、輝く。ずっと締まっっていて、どこか神々しくも思えるような美しい髪。ここは本当に学校の廊下か？ こんなところに女神が持つかのような髪の間人間がいていいのか？ そう思えるほどだった。

俺はその髪が好きだった。

「……………何？」

キツと鋭い目で睨まれる。矢嶋由香里やじまゆかり。俺の好きな髪を持ち主だ。白い肌が黒髪を際立たせている。また大きな目の持ち主でもある。白目の面積が多いから、睨みの凄味がはんぱじゃない。

だが、こいつに睨まれるのにも慣れてしまった。

「は？ 何が？」

涼しい顔でそう答えると、彼女は嫌悪の感情で俺をじっと見、髪をマントのように翻して立ち去った。

「よお、和久田の旦那」

「……………あ？」

軽々しく話しかけてきたのは友人の大輝だいきだった。

「まーだ狙ってんの？ 悪鬼姫様を」

そう言っただけ俺の肩に腕を回してくる。……………暑苦しい。

「そんなんじゃないって」

「馬鹿。俺を騙せるとでも思ってたのか？ お前って隙があればいつも矢嶋のこと見てるよな」

くっ……。返す言葉が無い。勘違いをされていることは確かだが、確かに俺は機会があればいつもあの髪を見ている。いや、髪が俺の視線を引き寄せてるような……………。

やめだ。馬鹿馬鹿しい言い訳をするのはよそう。

「あの女だけはやめとけ。顔は綺麗かもしれねえが、性格は最悪だぜ？ 暗い上、怖い。薄気味悪い。一人で図書室は当たり前だ。あいつがなんの本読んでるか知ってるか？ 怪奇とか拷問とか……ぶっそうなもんばっかだ。それに、告った奴らがなんて言われて玉砕したか知ってるか？ 『私のためにヒトミゴクウになってくれる？』だど。意味分かんねえ。イカれてるぞ。顔だけ見るんじゃないで、もっとしっかり考えろよ」

「いや、俺はあいつの……」

漫画のようなタイミングで昼休み終了のチャイムが鳴った。廊下に出ている生徒はみんな、教室に戻るために慌ただしく動き出す。

「おっ。俺らも戻るぞ」

「……ああ」

俺はなんとなく矢嶋が立ち去った方向を見てから、教室へ戻った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9818u/>

俺の愛した黒髪

2011年10月9日11時58分発行